

③ 高齢化

世界的に進む高齢化(65歳以上が総人口の7%を越えると高齢化社会)。多くの途上国は十分に豊かになる前に高齢化社会を迎える。

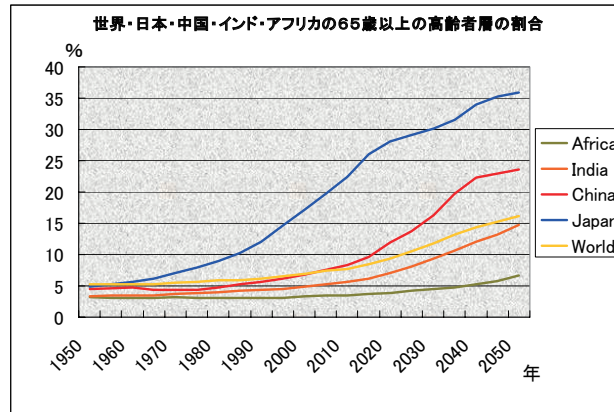


図. 高齢者人口比率の予測

出典:UN World Population Prospects (2004) より作成

④ 世界の都市人口(都市人口比率)

2000年から2030年にかけて世界人口は20億人増加すると予測されているが、その人口は途上国の都市地域に吸収される。アジアとアフリカにおいて都市人口比率の増加が著しい。両地域の2003年の都市人口比率は39%であるが、2030年にはアフリカで54%、アジアで55%に達する。

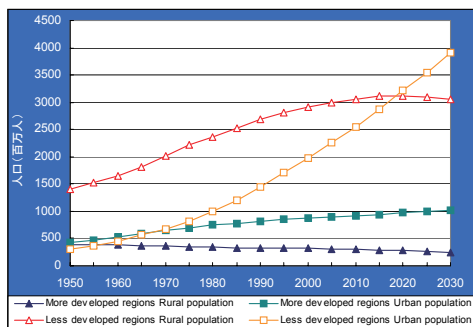


図. 先進国と途上国の都市人口・非都市人口

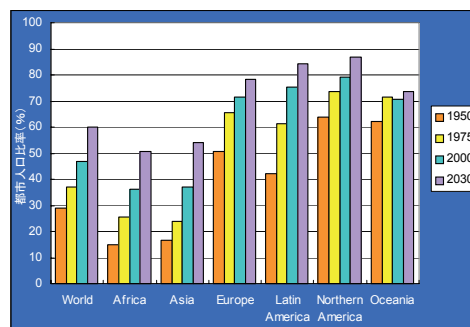


図. 都市人口の比率

出典:UN World Urbanization Prospects (2005) より作成

⑤ 世界の都市人口

インドの都市人口が急増しており、2015年にはムンバイ、デリー、カルカッタが1500万人を越える都市になっている。

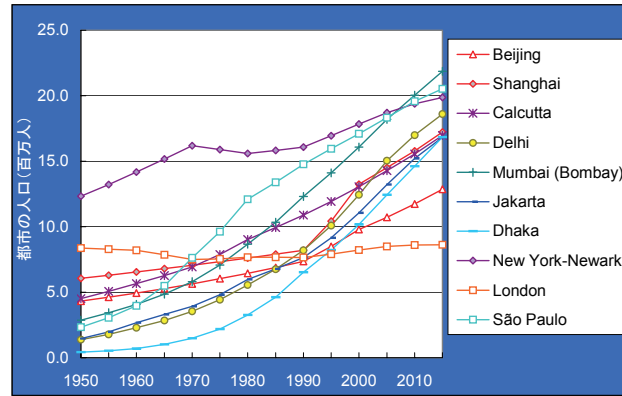


図. 世界の主な都市の人口

出典: UN World Urbanization Prospects (2005) より作成

2. 経済・産業・開発

① 世界経済

一定の前提のもと、想定される中国、インド等の経済規模の拡大。ただし、環境・資源制約、高齢化、制度改革等多くの課題。

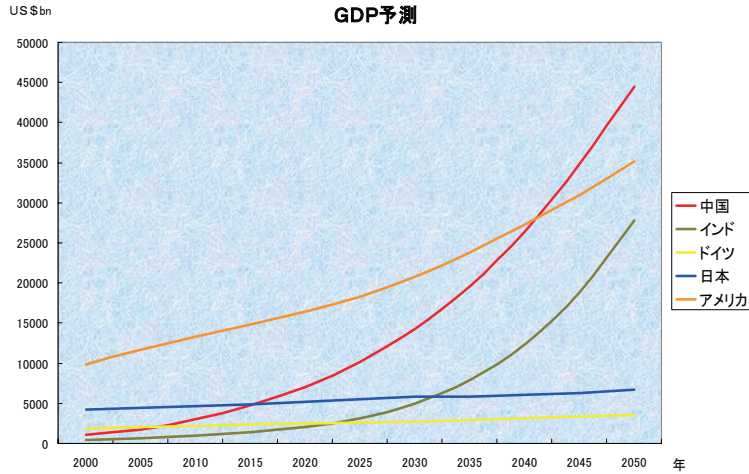


図. 主要国のGDP予測

出典: Goldman Sachs, Global Economic Paper No:99, 2003より作成

② 経済的豊かさ

一人当たりGDPで見ると、中国、インドとの格差は縮むものの、日本は、なお相対的に相当程度豊かでありうる。

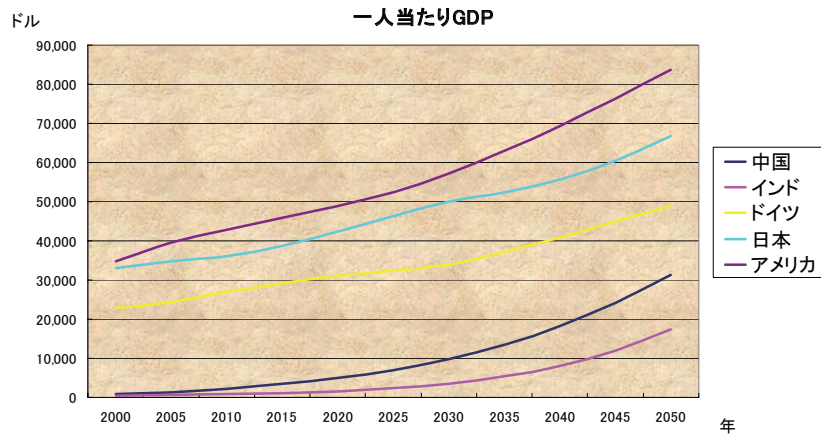
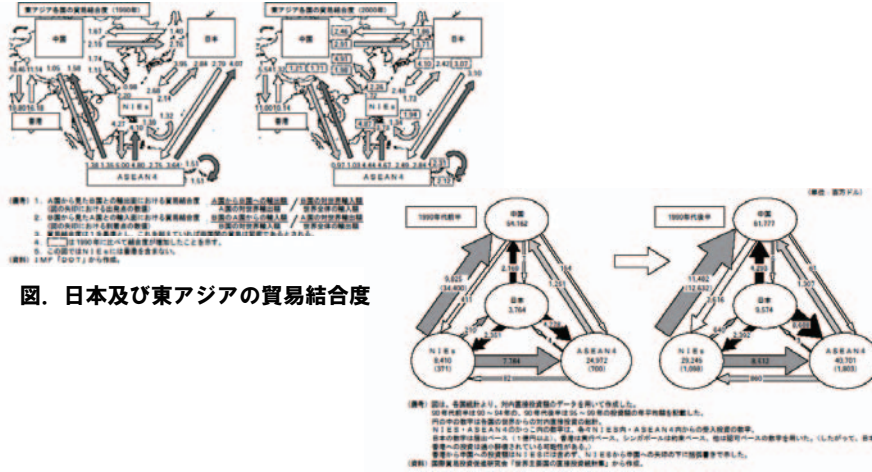


図. 主要国の一人当たりGDP予測

出典: Goldman Sachs, Global Economic Paper No:99, 2003より作成

③ アジア地域の経済関係の深化

多くの国・地域において貿易結合度が上昇しており、この地域の貿易面における相互依存関係が深まっている。また、アジア域内における直接投資も増加している。



出典：通商白書(2002)

④-1 ミレニアム開発指標：貧困と飢餓の撲滅

目標1：2015年までに1日1ドル未満で生活する人口比率を半減
 サハラ以南のアフリカ以外は目標達成が見込まれる。一方サハラ以南のアフリカでは、2015年においても依然3億人以上が厳しい貧困に苦しむ。2015年に1日1ドル未満で生活する人の約9割は、サハラ以南のアフリカまたは南アジアで暮らす人々。

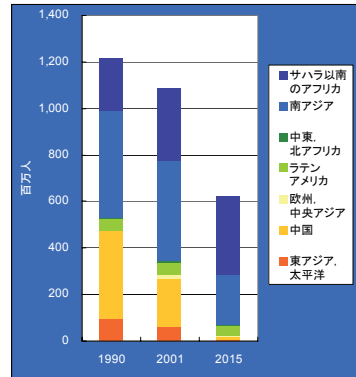
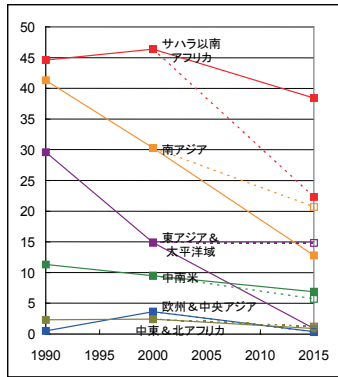


図. 1日1ドル(または2ドル)未満で暮らす人の割合 (%)

図. 1日1ドル未満で暮らす人の数

出典：世界銀行HP(www.developmentgoals.org)より作成